


狛江えきまちビジョン(骨子)

- 狛江駅北口周辺エリア 未来ビジョン -



令和6年3月
狛江えきまち会議

01 | ビジョンの目的・位置付け、対象エリア

狛江えきまちビジョンは、官民連携のまちづくりを進めるために関係者が共有する**狛江駅北口周辺エリアの将来像**です。

ビジョンの目的・位置付け

- 狛江えきまちビジョン(狛江駅北口周辺エリア 未来ビジョン)は、令和5年3月に市が策定した「狛江駅周辺エリア 道路利活用方針」を踏まえ、狛江駅北口周辺における官民連携のまちづくりを推進するため、地域の住民や団体、事業者、行政機関等の関係者や、このエリアの空間を活用する“プレイヤー”の皆さんが共有する対象エリアの将来像です。
- このえきまちビジョンでは、現在の狛江駅周辺の状況を把握したうえで、狛江市が持つ強みや特徴を踏まえ、狛江駅北口周辺エリアにおける将来イメージをビジュアルで表現しています。
- これからの狛江駅北口周辺エリアで、様々な主体がそれぞれの活動を展開していく際の指針として、このエリアが持つ独自の価値や可能性を、皆で共有し、広げていくために策定するものです。

ビジョンの対象エリア

- 狛江えきまちビジョンは、狛江駅北口周辺の一帯のエリアのうち、市道や広場をはじめとした市が管理する公共用地を主な対象とします。
- このうち、ふれあい側道、改札前南北自由通路、狛江駅北口交通広場は、国の「歩行者利便増進道路(ほこみち)制度」による運用を行います。

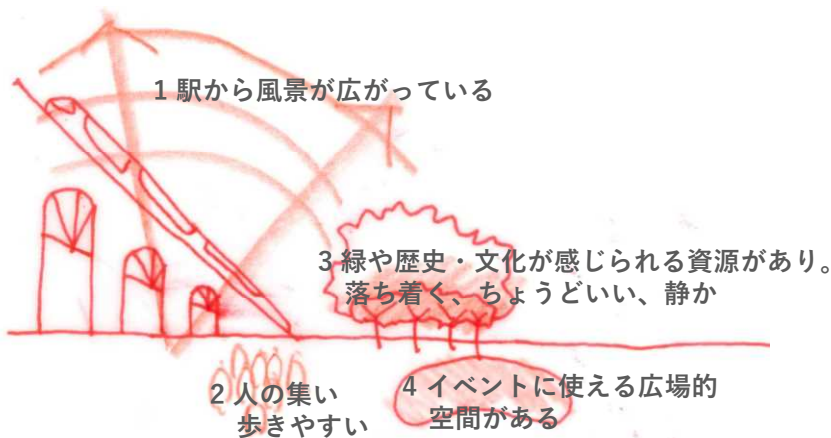
※狛江駅南口側のまちづくりについては、現在、地区まちづくり協議会と行政による検討が進められています。このえきまちビジョンの推進にあたっては、南口側のまちづくり活動との連携を図りつつ、将来的な狛江駅周辺エリア全体へのエリアマネジメント導入の可能性も見据え、南口側の検討状況を注視していきます。



02 | 狛江駅北口周辺エリアの現状

狛江駅北口周辺エリアは、駅前でありながら、人がゆっくり過ごすための緑や歴史・文化といった地域の資源に恵まれています。一方、賑わいを生み出すしかけやしくみ、設備に乏しく、本来の価値を十分に発揮できていません。

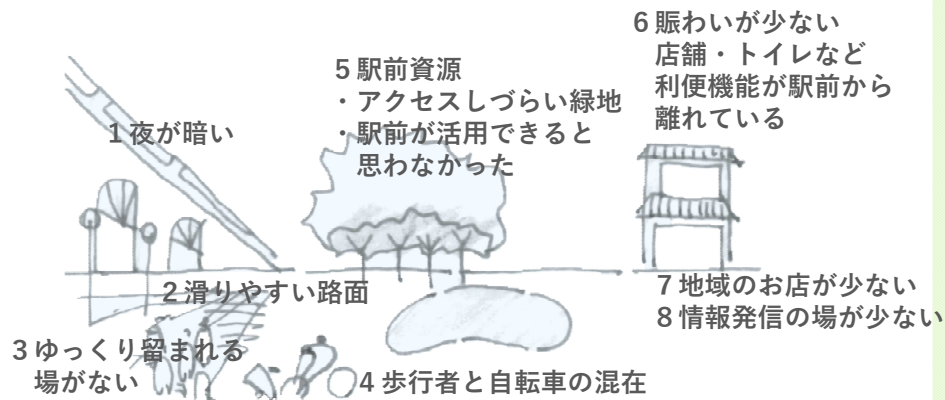
良いところ



- ・ 駅を出ると目の前に広がる狛江弁財天池特別緑地保全地区の自然は、地元団体による管理がなされ、駅前の良好な景観形成に寄与していると同時に、周辺の空間に静けさや落ち着きを与えています。
- ・ 駅のすぐそばに、泉龍寺をはじめとして、地域の歴史や文化を感じることができる資源が存在しています。
- ・ 噴水ステージなど、主にイベント利用によってこのエリアの賑わいを生み出すことができる広場的な空間があります。

少し足りないところ

(←南側と北側→のギャップ)

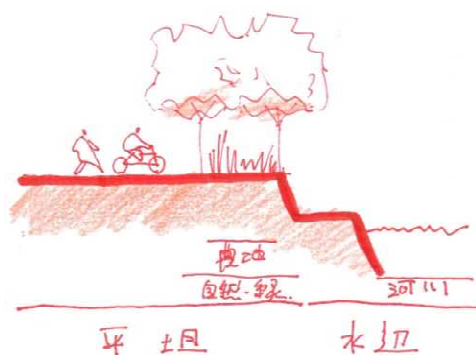


- ・ 駅周辺は商業的価値も高いエリアですが、飲食店など、日常のなかで人が滞留できる空間に乏しく、情報発信も少ないことから、恒常的な賑わいは生まれづらい環境になっています。
- ・ 多くの人々が毎日通る場所でありながら、日常のなかで地域のお店を感じることが少ない空間になっています。
- ・ 夜が暗い、滑りやすい、歩行者と自転車の混在など、道路設備に起因する問題も見られます*。(※令和5～6年度に実施する道路改修工事により改善が見込まれています。)

03 | 狛江市の強み・特徴

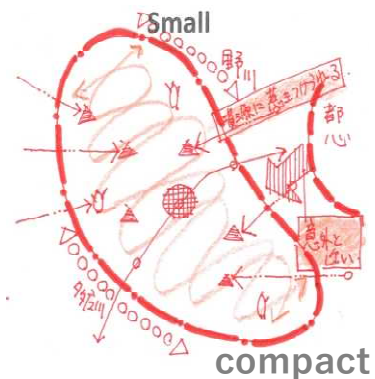
狛江市は、市域が平坦で、自然も豊か。小さくコンパクトにまとまっていて、交通利便性も高く、ローカルな資源も豊富。これらの強み・特徴により生みだされる“まちと人の近さ”は、駅周辺エリアの将来像に繋がる狛江独自の価値と言えます。

1 平坦 | 自然豊か Flat Nature



平坦で暮らしやすく、豊かな自然が身近にあるまち

2 小さく、コンパクト 交通利便 Small & Compact Accessible



市域が狭く、コンパクト。他の地域との行き来もしやすく、市内外の様々なことに触れられるまち

3 ローカルな資源 Local



“狛江ならではの”魅力溢れるコンテンツがたくさんあるまち

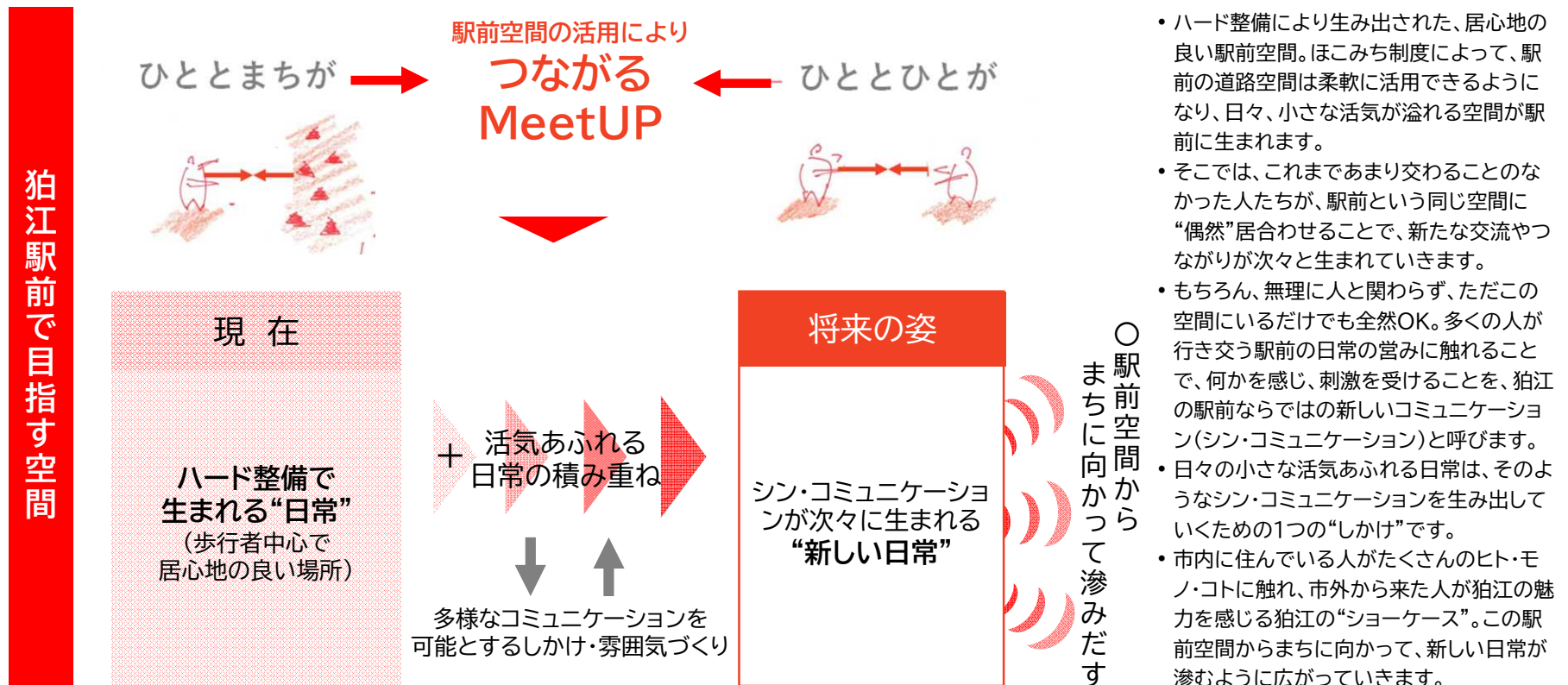
“まち”も

近い
Close

“ひと”も

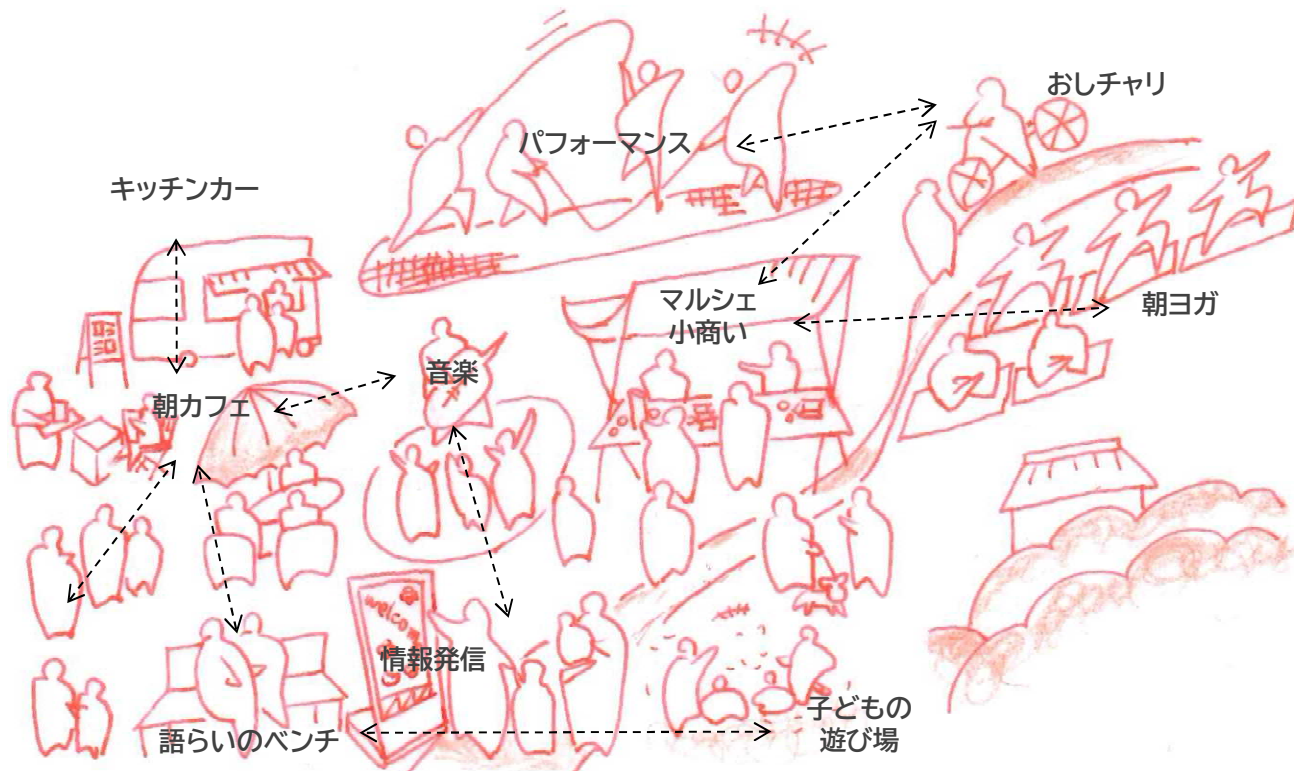
04 | 駅前エリアの将来の姿(コンセプト)

ひととまち、ひととひとがつながる狛江駅前。歩行者中心の居心地がよい空間で、狛江ならではの新しいコミュニケーション(シン・コミュニケーション)が次々と生まれ、その賑わいが狛江のまち全体に向かって滲むように広がっていきます。



05 | 駅前エリアの日常の風景/利用シーン

狛江駅前に行くと、誰もが思い思いの時間を過ごしている。静かに過ごしている人もいれば、何かにチャレンジしている人もいる。「これまでの非日常が、少しずつ日常になっていく。」これが、新しい狛江駅前の風景です。



- 狛江の駅前で生まれるシン・コミュニケーション。同じ空間のなかで、ひととまちがつながり、ひととひとがつながる。色々な人が出会い、一人ひとりのつながりの輪が広がっていく。
- そのため、駅前空間は一人ひとりのやりたいコトを積極的に応援する、懐の広い空間であることが必要です。

例えば、

地域のお店が、自分たちのお店を紹介するためのポップアップストアを出していた。知り合いが自分でつくったアクセサリーのお店を開いているのを偶然見つけた。会社帰りに覗いたイベントが予想外に楽しくて少し元気が湧いてきた。学校帰りの中学生が、教科書を出して勉強したり、スマホ片手に友達とお喋りしたり。青春の1ページが、この狛江の駅前で刻まれる。

- 駅前空間で、それぞれの人が思い思いに時間を過ごすなかで、そこにいるヒト・コト・モノから様々なきっかけを受け取り、日々の生活が豊かになっていく。そんな風景がどんどん広がっていく、そんな空間をつくります。